日本統合医療学会 会報
IMJニュース
No.31
2019年7月1日発行

編集・発行　一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長　川嶋みどり　URL：http://imj.or.jp/
〒170-0003　東京都豊島区駒込1-43-9　駒込TSビル 4階　一般財団法人口腔保健協会内
一般社団法人日本統合医療学会事務局　E-mail：imj@imj.or.jp　TEL：03-3947-8891

巻頭言

日本の統合医療構想の実現に向けて ―その2

伊藤　壽記　日本統合医療学会理事長

さて，5月から年号も平成から令和へと変わり，新たな時代を迎える機運が出てまいりました。日本統合医療学会は昨年から新体制がスタートしております。その一環として，事務局体制も一新して6月1日からフル稼働することになりました。ここ2か月は会員ならびに賛助会員の皆様には連絡などで大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。6月からは，下記の新しい事務局でしっかりと運用されていますので，宜しくお願い致します。

本年1月15日付けの巻頭言では，いくつかの基本方針について述べました。その後，皆さんと今後の検討課題について相談してまいりました。いくつか具体的な報告をさせて頂こうと思います。

まず，財政については，財務担当の福岡先生をはじめ業務執行理事の先生方ともご相談の上，できるだけ無駄を省き，限られた資金を有効に使用すべく検討しています。その結果，学会誌はこれまでの紙媒体を廃止して電子ジャーナルとし，また，今回からニュースレターもPDF化してHPで閲覧できるようにします。HPも6月からは新たなフォーマットでスタートしますが，英語版も含めて，徐々に改良していく予定です。

一般社団法人日本統合医療学会
事務局担当者　宍戸 基行 氏
〒170-0003
東京都豊島区駒込1-43-9　駒込TSビル 4階
一般財団法人口腔保健協会内
TEL：03-3947-8891　FAX：03-3947-8341
e-mail imj@imj.or.jp

認定研修につきましては4月14日のPart 1.を皮切りに新たにスタートしており，Part 5.まで，すでに予定が決まっています。

各種規約の整備も急がれます。昨年のパブリックコメントを受けて，倫理宣言，倫理規約ならびに利益相反規定をHP上で公開しています。さらに学術研究部会（以前の部会のこと）および支部会の在り方を検討しており，各々の規約につきましても現在検討しています。

統合医療の実践においては，IMJが提唱する医療モデルと社会モデルのうち，後者の2025年問題において，政府が提唱する地域包括ケアの中で統合医療の役割が大きいと思われます。各地域でさまざまな取り組みがなされていますが，地方自治体とも連携して協力体制を構築することが必要となります。

また，統合医療に関する共通言語としての用語集につきましては，当初は書籍としての発刊を予定しておりましたが，まずはHP上で公開して，会員の皆様の意見も取り入れた形で集約して，用語委員会で検討しながら進めていきたいと考えています。一応，当初の予定通り，鹿児島での定期学術集会までにHP上に掲載する予定です。

一方，グローバルな展開につきましては，世界がCAMから統合医療へとコンセプトが拡大しています。たとえば，米国のNCCAM（National Center for Complementary & Alternative Medicine）が2014年末から，NCCIH（National Center for

Complementary & Integrative Health）へとAlternative（代替）が削除され，Integrative（統合）へと，またMedicineから，予防医療も包括した，もう少し大きな概念であるHealthへと変わりました。中国では，中国伝統医療（TCM）と近代西洋医療とを統合した中西医結合学会があり，昨年IMJと上海中西医結合学会との間で学術協定が結ばれました。台湾にも同様の学会が存在します。韓国では慶熙（キョンヒ）大学に東西医学研究所があります。また，以前ご紹介しましたキューバでは，社会主義の国で医療費はすべて国から支払われますので，保険の縛りがなく統合医療という言葉はありませんが，医療そのものが統合医療です。キューバは1991年ソビエト連邦が崩壊すると，これまでの急性期医療を中心とした医療から健康増進を目指した予防医療へと方向転換を計りました。ずいぶん以前（1984年）から，家庭医（ファミリードクター）制度が定着していたことが功を奏し，今ではプライマリーケアの最先端国です。IMJとは2017年にキューバの生体エネルギー自然療法学会(SCMBN)と学術協定を結び，昨年キューバで第2回の日玖統合医療シンポジウムを開催しました。今年も9月に，キューバのハバナとマタンサスで第3回の同シンポジウムを予定しています。

最後に，本学会が社会に信頼され，真に求められる学術団体として，活動していきたいと思っております。引き続き，ご支援いただきますようにお願い致します。

トピックス Topics
倫理委員会からのお知らせ

小野　直哉
日本統合医療学会（IMJ）倫理委員会委員長

近代西洋医学とともに統合医療を構成する伝統医療や補完医療の中には，近代西洋医学と比較して，科学的根拠が低いと言われるものも多く，疑似科学批判の対象にもなりがちで，中には健康被害を伴う詐欺まがいの商法が横行し，後を絶たない現状が見受けられます。否応なしに，伝統医療や補完医療を内包する統合医療は，制度化された近代西洋医学以上に，社会的に厳しい目で見られ，過剰に科学的根拠と倫理観を求める社会的二重規範の環境下に置かれています。統合医療が公の場で話題となり，注目・認知されればされるほど，統合医療を見る社会の目はより厳しくなり，統合医療には，特定の職能集団及び介入手段等に貢献するものではなく，社会的に公正な立場が求められます。

現在，当学会倫理委員会では，時代の変化に沿った倫理の在り方を踏まえ，当学会の倫理指針の全面的な見直しと改定作業を随時進めております。2016年9月に，「日本統合医療学会倫理宣言（案）」，「日本統合医療学会倫理規約（案）」，「日本統合医療学会における利益相反に関する指針（COI）規程前文（案）」のパブリックコメントを当学会会員に対し，当学会ホームページ上で求めました。その後，厚生労働省，文部科学省，日本医学会等での倫理指針の改定が行われました。また，2017年7月には当学会とキューバ生体エネルギー・自然医療学会（SCMBN），2018年12月には上海市中西医結合学会との学術協定が締結されました。これらに伴い，当学会が国内外の学術団体との学術交流を推進するに当たり，国内外の学術団体の倫理指針の参照も必要となりました。

これらを踏まえた上で，当学会倫理委員会では，「日本統合医療学会倫理宣言（案）」，「日本統合医療学会倫理規約（案）」，「日本統合医療学会における利益相反に関する指針（COI）規程前文（案）」の改訂作業を進め，それらの草稿を取り纏め，2018年9月1日～14日まで，当学会ホームページ上で，本草稿に対する当学会会員からのパブリックコメントを再度求めました。その後，パブリックコメントを踏まえ，再度，「日本統合医療学会倫理宣言（案）」，「日本統合医療学会倫理規約（案）」，「日本統合医療学会における利益相反に関する指針（COI）規程前文(案)」の補足修正の検討を重ね，2019年4月14日の当学会定例理事会にて，「日本統合医療学会倫理宣言」，「日本統合医療学会倫理規約」，「日本統合医療学会における利益相反に関する指針（COI）規程前文」が正式に承認され，施行されるに至りました。

特定の職能集団及び介入手段等に貢献するものではなく，社会的に公正な立場が求められる統合医療の学術集団である当学会の会員（正会員・学生会員・賛助会員）各位には，当学会の該当ホームページ（http://imj.or.jp/imj/shikousaisoku）から，「日本統合医療学会倫理宣言」，「日本統合医療学会倫理規約」，「日本統合医療学会における利益相反に関する指針（COI）規程前文」のご確認をお願い致します。また，当学会の会員各位には，社会的に公正な立場が求められる当学会の会員である自覚と共に当学会の会員としての倫理観を保持するために，「日本統合医療学会倫理宣言」，「日本統合医療学会倫理規約」，「日本統合医療学会における利益相反に関する指針（COI）規程前文」の遵守をお願い致します。

寄稿

第六回 世界中西医結合大会に参加して

佐藤　美弥子
日本ヨーガ療法学会・常任理事

2018年12月6日～9日の日程で，上海市において“第六次世界中西医結合大会”（The 6th World integrative Medicine Congress）が開催された。

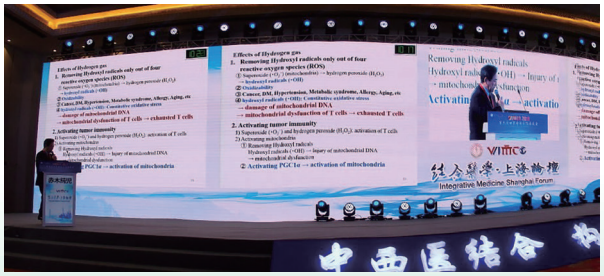
日本統合医療学会からは伊藤壽記理事長，前理事長の仁田新一先生をはじめ，木村慧心先生など13名が参加し，アメリカからはMD Anderson癌センターのロエンツォコーエン先生，その他イギリス，イスラエル，スイスなどからの参加もあり3,000名ほどが集った。会場となった上海富悦大酒店（Shanghai Fuyue Hotel）は市内からは離れているものの上海市にある浦東（プードン）虹橋（ホンチャオ）の2つの国際空港からはほぼおなじくらいの距離（20数キロ）にあり，3,000人以上収容できるメイン会場はステージも予想の3倍はあるかという大きさで，撮影用のテレビカメラはクレーンに取り付けられ頭上を行き来し，中国のコンベンション施設という印象を受けた。

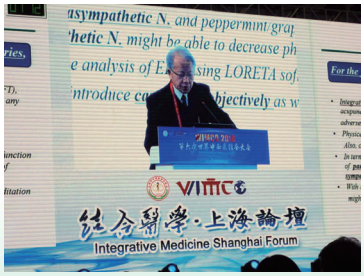
7日は朝の8時から写真撮影やオープニングセレモニーがあり，上海市科学技術協会主席の陳凱先氏や，中国中西結合学会会長の陳美香氏からは，中国の中西医結合学のこれまでの60年の歴史についての報告があった。中国の医療システムには上海の近辺から発祥し長い歴史を持つ中医学（中医薬学）と，現代医学（西洋医学）があるが相反するものであってはいけない，双方の優れた所を引き出し，中医学と西洋医学を結び付けていくことが毛沢東主席により提唱された。しかもそれは中医学と西洋医学を単純に組み合わせるのではなく，臨床研究を続け，安全で人民の健康に貢献できるようにと，鄧小平，胡錦濤など歴代の指導者達にも引き継がれ，1981年に中国中西医結合学会が成立した。中国には中医学，西洋医学，中西医結合医学という3つ医療システムが存在することなどが詳しく説明された。

午後からの臨床医学のセッションでは福沢嘉孝先生が『半健康状態の可視化の重要性とその臨床的意義について』というテーマで講演を行なった。福沢先生は昨年3月の中西医結合学会にも参加され，IMJニュースNo.29にもそのご報告が載せられていたのは記憶に新しいであろう。

翌8日の9時30分からの統合医療上海フォーラムでは伊藤壽記理事長による『日本における統合医療の現状と展望について』，コーヒーブレイクの後，赤木純児先生による『免疫が進行がん患者を治療する時代の到来について』の発表があったが，この会議に先立つ10月には，免疫チェックポイント阻害薬ニボルマブ（商品名オプジーボ）を開発した日本の本庶佑氏のノーベル賞受賞の発表もあり，参加者の関心もひときわ高かったように思われた。

調印式では伊藤先生と，陵昌全氏とが固い握手をし，今後も日本と中国の双方の学会がともに手を携えていくことを確認しあい，今年の12月7日に鹿児島で開かれる日本統合医療学会にも中国の研究者を招待し，学術と医療などについての交流を深めていくことを約束し4日間にわたる会議が幕を閉じた。





本の紹介

体調の“ゆらぎ”が目に見える『カラダみつめるNOTE』

鈴木 円香
統合医療女性の会

女性のカラダにあらわれやすい95の症状について，日本統合医療学会に所属する，皮膚科，内科，産婦人科，眼科，耳鼻科，泌尿器科，東洋医学，歯科など7人の専門医が解説する第1弾『カラダみつめる手帳』に続いて，第2弾では専門医監修のもと，続けるだけで「体調のゆらぎ」が目に見えるようになる『カラダみつめるNOTE』を作りました。『カラダみつめるNOTE』には，簡単に続けられるよう次の3つの工夫があります。

【1】365日いつからでも始められる

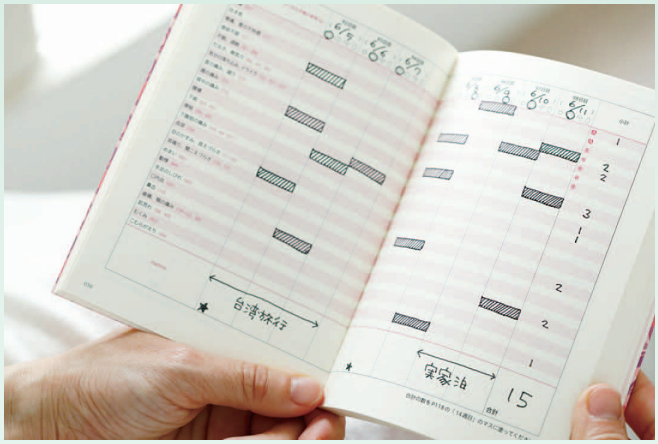
『カラダみつめるNOTE』は，1年を通していつからでも始められます。元旦から始めても，お手元に届いた翌日か始めても，それが月曜日であっても金曜日であっても問題なくスタートすることができます。

【2】2つのステップを繰り返すだけでOK

STEP1▼7日間，毎日「日ごとのページ」を記入し続けたら，

STEP2▼「週ごとのページ」に1週間のまとめを書き込む。

この2つのステップを，1年間365日にわたり続けるだけです。まずは「日ごとのページ」と「週ごとのページ」だけをやってみて，余裕があれば「痛みの記録」や「かかりつけNOTE」などの付録にもチャレンジしてください。



【3】塗りつぶすだけで視覚的に体調の波がわかる

『カラダみつめるNOTE』は，基本的に毎日文字を記入する必要がなく，該当するマス目を塗りつぶしていくだけ。7日間「日ごとのページ」を記入したあと，そのページが黒っぽくなっていれば「あまり体調がよくない時期」，黒っぽくなければ「体調がよい時期」ということがパッと見て直感的にわかるようになっています。1年後に振り返ってみても「この時期は不調だったんだな」「この時期は体調が悪かったんだな」と，全体を通して自分のバイオリズムが掴めるので，季節やストレスレベルに合わせて体調管理がしやすくなります。

【1】から【3】の他にも，

▼周囲の目を気にせず開ける「文字なしの表紙」
▼持ち運びに便利な文庫（A6）サイズ
▼毎日使っても傷みにくい二重構造の表紙

など，いつでも身近に置いていただきたいという願いを込めた仕様になっています。

こちらのサイトから購入できます

https://bibliobaga.official.ec/blog/2019/05/04/122853

事務局だより

【2019年度会議等】

- 2018年11月11日　第1回業務執行理理事会
- 2018年11月11日　第1回通常理事会
- 2019年1月17日　第1回用語委員会
- 2019年2月1日　新春IMJ交歓会（IMJ役員と賛助会員交流会）
- 2019年2月1日　第2回業務執行理事会
- 2019年4月14日　第3回業務執行理事会
- 2019年4月14日　第2回通常理事会
- 2019年4月25日　第2回用語委員会
- 2019年5月23日　第4回業務執行理事会

【2019年度研修・セミナー等】

- 2019年4月4日　認定研修　Part 1
- 2019年5月11日　第2回IMJ免疫部会学術講演会
- 2019年6月22日・23日　認定研修Part 2/3
- 2019年6月23日　第5回業務執行理事会
- 2019年6月23日　第1回臨時理事会
- 2019年6月29日　統合医療女性の会「みんなの統合医療カフェ2019・夏」（日本赤十字看護大学）

【今後の予定】

- 2019年7月13・14日　IMJサマーセミナー（名古屋クラウンホテル）
- 2019年8月8日　第3回用語委員会
- 2019年8月24日・25日　認定研修Part 4/5
- 2019年8月25日　第6回業務執行理事会

編集後記

●「新しい酒は古い革袋に入れない」言葉そのまま，創設時の志を継承しつつも，多くの厳しい課題に直面しながら，新しい革袋を整えつつある理事長の巻頭言を読みました。これまで紙媒体でお届けしていたのを，本号からPDF化することになりました。時代の流れに添った情報提供のあり方ですが，これまで以上に内容を充実させながら，定期刊行を目ざす所存です。どうぞ，能動的にホームページを訪ねて頂き，ご意見をお寄せ下さい。（川嶋みどり）